

# 会 議 録

会 議 の 名 称	平成30年度第1回上尾市子ども・子育て会議	
開 催 日 時	平成30年5月28日（月）13時30分～15時15分	
開 催 場 所	上尾市役所議会棟4階 全員協議会室	
議長(委員長・会長)氏名	中村磐男（会長）	
出席者(委員)氏名	浦和三郎、戸野部直乃、大西早苗、内藤友里、入野麻希、松本慶多、 外石馨、萩原和也、久芳敬裕、大川原恵子、田中元三郎（副会長）、 土屋正男、大場玲子、三角正敏	
欠席者(委員)氏名	野村和広、鈴木玲子、広瀬正幸	
事務局(庶務担当)	子ども未来部 柳部長、石川次長 子ども支援課 内田課長、松木主幹、和田主事 子ども・若者相談センター 堀口所長、新田主査 保育課 井上課長、藤波副主幹、濱田副主幹、今村主査、水城主事 青少年課 黒須課長、遊馬主事 健康福祉部健康増進課 清水課長、栗原副主幹、小西主査	
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果
	(1) 平成29年度上尾市子ども・子育て支援事業計画の 進捗状況について	承認
	(2) 特定地域型保育事業所の利用定員の設定について  (3) その他	承認
議 事 の 経 過	別紙のとおり	傍聴者数 0 名
会 議 資 料	別紙のとおり	

## 議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	ただいまから、平成30年度第1回上尾市子ども・子育て会議を始めさせていただきます。
中村会長	会長あいさつ
事務局	<b>資料に基づき説明</b> (1 平成29年度上尾市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について)
入野委員	資料3ページについて、30年度は3号認定だと92名分定員が足りなくなる、という見方でよろしいか。
事務局	その通り。92名分が30年度末では足りていない、ということを示している。31年度にはマイナスがなくなることで、保育量の提供体制が整うと読み取っていただきたい。
入野委員	今年度の申し込み数が前年度比10%増だったとのことだが、30年度の3号認定の1・2歳児の見込みは1,354、同じく31年度は1,328と減っていくというように読み取れるが、今後1・2歳児に限らず保育のニーズが増えていくということを考えると、31年度もマイナスの数字になってしまうのではないかと思うが、いかがお考えか。
事務局	今後も申し込み数が10%増になると量の見込みが変わることもあるが、量の見込みについては昨年度の中間年の見直しにおいて、社会増及び自然増を勘案し未就学児の推移を含めて、伸び率を算定して出している。児童数は減っていく想定はしているが、例えば新たな保育施設ができることで近隣の方が新たに保育所に通わせたいという意向があがるなど、保育需要は統計からは捉えられない部分がある。今回の見込み数については、あくまで統計的に見た見込みということでご理解いただきたい。
久芳委員	27年度から0歳児については充足していて1・2歳児は不足しているという数字だが、実際に運営している立場からしても、そのように感じている。川崎市をはじめとして神奈川県や東京都の自治体で、0歳児を入れず1歳児からの保育所を作っている。0歳児は費用がかかり、保育士も足りない状況で、保育士1人当たりの児童数も0歳児は3人、1・2歳児は6人という基準があり、費用面・保育士の配置の面から見ても1歳児からの園を作った方が待機児童の解消には結びつきやすいという話を、ある自治体の職員から受けたことがある。上尾市では、そのようなお考えはあるか。
事務局	そのようなところも含めて、需要の供給のバランスは考えてまいりたい。

戸野部委員	<p>「子育て短期支援事業（ショートステイ）」について現在まで事業化に至っていないが、量の見込みがあるということは需要があるということと捉えている。現在、市としてはどのような対応をされているか、教えていただきたい。また、事業化に向け検討を進めているとのことだが、具体的にお話しいただけることがあれば教えていただきたい。</p>
事務局	<p>子どもの生命を預かる重要な事業なので、その部分で課題が多くなかなか進まない状況だが、計画には含めているところなので、時期は明言できないがなるべく早期に進めていきたいと考えている。</p>
戸野部委員	<p>近隣他市で参考にしている事業があれば教えていただきたい。</p>
事務局	<p>川越市などを参考に検討しているところ。</p>
入野委員	<p>「病児・病後児保育」について、保護者会連合会としても長年お願いをしており、今年度から高崎線東側にも1か所増設され、地域バランスから見ても保護者は大変喜んでいる。</p> <p>「一時預かり事業」に関して、29年度は見込みに対して確保実績が下回ったとのことだが、利用者としての実感として、今まさに3か月の子どもを預けてこの会議に出席しているが、0歳児を預けられる認可保育所が市内で1か所しかない。以前は東西1か所ずつあったが、現在は桶川市寄りのカオルキッズランド中妻園しか0歳児を受け入れておらず、園の職員からは職場復帰が多くなる年度末には枠が取れないという話を聞いた。待機児童になってしまった場合の受け皿になっていることが多いので、量の上では充足しているものの年齢バランスについてはどうお考えか。</p>
事務局	<p>昨年度までは上平地区のさつき保育園でも実施していたが、保育士の確保が難しく、一時預かり事業においても子どもの年齢により保育士の配置が決まっており、0歳児の条件が厳しいことから事業内容を変更した。現時点では小規模保育事業所も含めて0歳児枠は余裕があるため、致命的な状況ではないと考えるが、ご指摘のとおり年度末には需要があがるため、今後一時預かり事業を開始する園、また現在実施している園についても0歳児の受け入れについて引き続き協議してまいりたい。</p>
入野委員	<p>0歳児の養育は大変で、毎日預けたいわけではないが1日程度預けたいというのが一時預かりを利用する保護者の考えなので、保育士の確保が難しいことは承知しているが、預けられるようにしていただくと助かる。</p> <p>「利用者支援事業」について、母子保健コーディネーターを配置されたとのことだが、私自身2月に出産したばかりでこのサービスを利用したところだが、妊娠中に感じたのは、平日働いていると市役所が開庁している時間に相談できなかった。土曜日でも開庁していただくと、働いている妊婦も相談しやすいと考えるが、いかがお考えか。</p>
事務局	<p>今年度から、東保健センターに加えて本庁舎の子ども支援課に母子保健コーディネーターを新たに配置した。子ども支援課は土曜日でも開庁しているので、ご活用いただきたい。</p>

久芳委員	<p>「一時預かり事業」について、私どもが運営している園が2か所あり保育士も確保できているので、検討したい。それから、保育士が足りない状況なので難しいとは思いますが、ほかの私立保育園にも呼びかけてみたい。</p> <p>報告内容について、幼稚園以外の量の見込みが28年度から29年度に約6,000人増えており、30年度から31年度のかけても5,000人近く増える見込みだが、どういう理由か。</p>
事務局	<p>計画を策定した時点では児童数が減少する見込みを立てたが、実際には保育所の利用数も増えていることから、実態に合わせて29年度以降の量の見込みを見直したところ。駅周辺の施設では年間500人の利用があり、施設数と掛け合わせて数値を算出した。</p>
久芳委員	<p>幼稚園の一時預かりは余裕があるが保育園の一時預かりは足りなくなっている状況であるが、制度的な違いはあるのか。</p>
事務局	<p>幼稚園については基本的に在園児を対象とした時間外保育、延長保育を中心にやっていただいている。保育施設における一時預かりは通常の入所児童とは別に、上尾市の場合は3日以内の就労、病気や冠婚葬祭により一時的に保育を必要とする方に対応するための事業として実施している。</p>
久芳委員	<p>28年度から29年度にかけて確保実績が1,700人ほど減っているが、主な原因は保育士が確保できていないことか。</p>
事務局	<p>そういったことも要因のひとつと考えるが、増えている園もあれば減っている園もあり、はっきりとした要因は分かりかねる。今後の様子を見て対応してまいりたい。</p>
事務局	<p><b>資料に基づき説明</b>  <b>(2 特定地域型保育事業所の利用定員の設定について)</b></p> <p>質疑なし</p>
事務局	<p><b>連絡事項</b>  <b>(3 その他)</b></p> <p>子ども・子育て支援法では、市町村においては5年ごとに子ども・子育て支援に関する計画を策定することとされている。次期計画の指針が7月頃に国から通知される予定であり、これに基づき秋頃に次回会議を開催したい。詳細については追って連絡する。</p> <p>また、本年4月より東保健センター及び子ども支援課に「子育て世代包括支援センター」を開設し、助産師や保健師などの母子保健コーディネーターと精神保健福祉士などの子育て支援コーディネーターをそれぞれ配置した。妊娠届出時に面接を行うことで、妊娠期から子育て期までの生活イメージを一緒に考えているところ。また、妊婦や子育て家庭が抱える子供に関する不安、悩みなどの相談にも丁寧に対応している。必要に応じ地区担当保健師と連携を密にして訪問支援体制も整えている。参考に、妊娠届出や相談に関する4月からの件数は、東保健センターが29件、子ども</p>

田中副会長	<p>支援課が21件。センター開設に伴い妊娠届出及び母子手帳交付窓口に変更があったので、チラシで周知を図っている。</p> <p>市から、2歳児の保育あるいは小規模園の3歳児になったときの受け入れについてのお願いがあった。幼稚園協会で定員に充足している園は半分もないので2歳児を受け入れてくれる園や、地域で小規模園が増えてくると3歳児の受け入れが難しいので3歳児になったときに6～7時まで引き続き預かるような幼稚園も出てくるような感じもある。来年度に認定こども園に移行する幼稚園もあるので、2歳児がいる家庭が心配しないで保育ができる体制を整えられると考えている。全国で保育園に入所している子どもが240万人、幼稚園が170万人だったかと思うが、私が始めたころは半々くらいだった。子どもを保育所に預ける保護者が増えてきたように感じる。隣のさいたま市では、この5年間で幼稚園児が5,000人減ったそうだが子どもの数は増えているため、保育の需要が高まっている。こういう流れのなかで、上尾市も子どもを預かることができる施設が増えればよいと考える。</p>
-------	---